

スポーツ柔整科 JT21A JT22A JT23A

分野	教育内容	必修	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1 年次		2 年次		3 年次	
		選択					前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器：骨格系、筋系）	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
		必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15		
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					15	15
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科科学	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
		必修	リハビリテーション医学Ⅱ（高齢者の運動機能維持・回復）	講義	1	15				15		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30					15	15
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	2	30					30	
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60					30	30
		必修	職業倫理	講義	1	15					15	
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15				15		
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義	2	60					30	30
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ（物理療法機器の取扱い）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ（柔道整復術の臨床的判定・医用画像）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（機能訓練指導）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ（臨床実習前施術試験等）	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技	1	30						30
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30		
		必修	柔道整復実技Ⅵ（競技者の外傷予防）	実技	1	30			15	15		
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			30	15		
		必修	柔道整復実技Ⅷ（機能訓練指導実技）	実技	1	30					30	
		必修	柔道整復実技Ⅸ（スポーツコンディショニング実技）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60					30	30
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

診察の意義と実際、生命徴候の測定、生理機能検査、検体検査、主に内科的疾患の定義や病態(原因、症状)、検査法、治療、予後を解説し、一般臨床医学の理解を促す。

2 到達目標

柔道整復師にとって必要な診察や検査法、主要な疾患について理解できることを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、適宜追加資料を配布し理解を促す。

4 成績評価方法・基準

定期試験、授業態度

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席頻度や受講態度を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。疑問に思ったところは積極的に教員に質問すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「一般臨床医学」（改訂第3版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野だけでなく合併している種々の疾患について理解することは、患者さんへの全人的なアプローチに繋がります。是非興味を持って取り組んでください。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（一般臨床医学Ⅱ）

回数	授業内容
1	診察概論、診察各論（医療面接）
2	診察各論 視診・打診・聴診・触診・生命徴候
3	診察各論 感覚検査・反射検査
4	検査法 生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値
5	疾患各論 呼吸器疾患
6	疾患各論 循環器疾患
7	疾患各論 消化器疾患
8	疾患各論 代謝・栄養疾患
9	疾患各論 内分泌疾患
10	疾患各論 血液疾患
11	疾患各論 腎・尿路疾患
12	疾患各論 神経疾患
13	疾患各論 感染症
14	疾患各論 リウマチ・膠原病・アレルギー・環境要因による疾患
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

柔道整復師の適応範囲を理解し、適切な鑑別が実施できるように、
整形外科疾患および内科的疾患を知り、鑑別方法を学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

臨床症状の類似点を理解し、正しい判断ができるように各疾患と柔道整復術の
業務範囲内か業務範囲外かを適切に鑑別できるように、理解力を深める。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験 ， 授業態度

5. 評価の際の特記事項

授業態度には欠席回数，受講集中度，小テストの結果などを評価に含みます。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

全国柔道整復学校協会監修 「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

施術を行う上で、業務範囲についての知識と自覚がなければなりません。特に、柔道
整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して、適切な対応が求められます。
したがって、それらの基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問し
て、少しずつ理解できるように努力しましょう。

9. 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

[科目表へ戻る](#)

科目名(柔道整復術の適応)

回数	授業内容
1	患者の状況の的確な把握・鑑別
2	問診、触診の検査結果等による受傷状況の把握・鑑別
3	症状により、専門医受診に対する判断
4	整形外科的疾患との鑑別(1)
5	整形外科的疾患との鑑別(2)
6	整形外科的疾患との鑑別(3)
7	整形外科的疾患との鑑別(4)
8	内科的疾患との鑑別(1)
9	内科的疾患との鑑別(2)
10	柔道整復師が行える救急処置
11	多発性外傷患者への救急処置(災害を想定)
12	災害時での医師との連携
13	患者および家族に対する説明、患者の生活習慣と生活環境及び仕事に留意した指導
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」とその業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規を中心に、理解しておくべき法令を学ぶ。

2 到達目標

法の意義、体系をもとに、柔道整復師法および柔道整復に関する法規を理解する。
また、患者の権利やリスクマネジメント、そして、医療従事者の資格法、社会福祉関係法規についても、それらの内容を理解する。

3 授業の方法

教科書を用いた講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

法規は、難しい言葉や表現があります。授業前に予習（教科書を読む）をおこない、難しい言葉の意味を事前に調べるように、予習をする習慣をつけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「関係法規・2023年版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

関係法規は、柔道整復師の社会的役割とその使命を全うする為に必要な知識です。
積極的に学ぶように努力してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所で施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

[科目表へ戻る](#)

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	法の意義、法の体系
2	柔道整復師および柔道整復に関する法規
3	柔道整復師と患者の権利
4	医療過誤とリスクマネジメント
5	柔道整復師法 ― 第1章 総則、免許
6	柔道整復師法 ― 第2章 免許
7	柔道整復師法 ― 第3章 柔道整復師国家試験
8	柔道整復師法 ― 第4章 業務
9	柔道整復師法 ― 第5章 施術所
10	柔道整復師法 ― 第6章 雑則 第7章 罰則
11	柔道整復師法 ― 第8章 指定登録機関及び指定試験機関 第9章 附則
12	関係法規 ― 医療従事者の資格法 医療法
13	関係法規 ― 社会福祉関係法規 社会保険関係法規 その他の法規
14	まとめ復習
15	定期試験
16	定期試験 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

衛生学・公衆衛生学は人間集団を対象とし、生命や生活に影響を及ぼす環境要因を適切に評価・管理することで社会全体の人々の健康増進に寄与することを目的とする学問です。

2 到達目標

健康の概念、保健衛生活動の内容、感染症の特徴と予防法を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書、授業プリント、PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験と後期試験成績で評価する。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進捗計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより、授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため、小テストを実施する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「衛生学・公衆衛生学」 南江堂

8 学生へのメッセージ

医療従事者は施術に優れているだけでなく、健康保持・増進に必要な生活習慣の改善、保健サービスの利用などに適切なアドバイスが行える能力も必要です。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

[科目表へ戻る](#)

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 衛生学・公衆衛生学とは
2	健康の概念 WHO 健康の定義 国際障害分類
3	健康管理 健康の測定 人口統計 慢性疾患と生活
4	疾病の自然史と予防 一次予防 二次予防 三次予防
5	感染症(1) 感染源 感染経路 感受性宿主
6	感染症(2) ウイルス感染症 細菌感染症
7	感染症(3) リケッチア・スピロヘータ・原虫・寄生虫感染症
8	感染源対策 感染経路対策 感受性宿主対策 予防接種
9	健康の概念 疾病予防 感染症の予防 まとめ復習
10	消毒の概念 殺菌 滅菌 消毒 防腐
11	消毒の種類 化学的消毒法 物理的消毒法
12	消毒法の条件と特徴 煮沸法 高圧蒸気滅菌法 焼却
13	消毒薬の特徴と適応 消毒作用の区分 手指の消毒
14	院内感染対策 日和見感染 スタンダード・プリコーション
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	地球規模の環境問題 地球温暖化 オゾン層破壊
18	環境因子 温熱因子 騒音 電離放射線 公害
19	生活環境 上水と下水 衣服 住居 廃棄物
20	母子保健の意義 母子保健指標
21	母子保健対策 母子健康手帳 少子化問題と子育て支援
22	学校保健 保健教育と保健管理 関係職員と役割
23	産業保健 業務上疾病と対策 健康診断
24	環境衛生 生活環境 母子・学校・産業保健 まとめ復習
25	成人高齢者保健の意義 生活習慣病 後期高齢者医療 介護保険
26	精神保健の意義 精神の病気 ノーマライゼーションと入院治療
27	地域保健 プライマリ・ヘルス・ケア 国際保健と WHO
28	衛生行政 保健所の役割 医療制度 医療計画 医療保険制度
29	医療倫理 医療安全 リスク・マネジメント
30	疫学 記述疫学 分析疫学 実験疫学 エビデンス
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の概要

柔道整復師としての倫理，マナー，コンプライアンスの基本を学習する。

2 到達目標

- ・ 柔道整復師に求められる倫理，柔道整復師・施術所に対する信頼，柔道整復師としての社会貢献・社会奉仕について理解する。
- ・ 医療関係者として，また社会人として求められる倫理，マナーについて理解する。
- ・ 患者に接する際の心構え，患者の自己決定権の尊重，プライバシーの保護とインフォームドコンセントについて理解する。
- ・ 柔道整復師として，法令等を遵守し，併せて保険請求のルール，道徳や慣習を理解する。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布をおこなう。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

予習は教科書読み、解らない語句や読み方などを事前に調べておいてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

近い将来，柔道整復師として仕事に就くうえで重要な基本理念を学習する授業です。
不明な点があるときは必ず質問をして，少しずつ理解を深めるように努力しましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション，授業内容の説明
2	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師に求められる倫理とは
3	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師が果たすべき役割
4	柔道整復師・施術所に対する信頼
5	柔道整復師としての社会貢献，社会奉仕
6	医療関係者・社会人としての倫理・マナー
7	医療関係者として求められる倫理
8	医療関係者としてのマナー
9	社会人としてのマナー
10	患者との接し方 ― 患者に接する際の心構え
11	患者の自己決定権の尊重
12	プライバシーの保護とインフォームドコンセント，守秘義務
13	コンプライアンス（法令遵守） ― 柔道整復師が守る法令
14	保険請求のルールへの遵守，道徳・慣習
15	定期試験
16	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道Ⅳ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1. 授業の内容

柔道整復養成施設指導要領の定める所による、卒業判定基準に達する為の実技能力の習得。

2. 到達目標

柔道実技審査項目合格

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など、資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9. 教員名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（施術所の施術管理者としての実務経験あり）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道 IV)

回数	授業内容
1	ガイダンス、身体慣し、受身復習、投技復習
2	受身復習、打込み、投げ込み、約束練習、乱取り
3	形の練習（手技 - 浮落） 約束乱取
4	形の練習（手技 - 背負投） 約束乱取
5	形の練習（手技 - 肩車） 約束乱取
6	形の練習（腰技 - 浮腰） 約束乱取
7	形の練習（腰技 - 払腰） 約束乱取
8	形の練習（腰技 - 釣込腰） 約束乱取
9	形の練習（足技 - 送足払） 約束乱取
10	形の練習（足技 - 支釣込足） 約束乱取
11	形の練習（足技 - 内股） 約束乱取
12	形の練習（通し稽古）、約束乱取
13	形の練習（通し稽古）、約束乱取
14	通し稽古（礼法・受身・形・約束乱取）
15	実技試験
16	試験結果発表、復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ ）
— 外傷保存療法の経過及び治癒の判定 —

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化のため、外傷の保存療法についての基礎を学習し、外傷の経過及び治療判断に関する外傷の保存療法の適用と限界を理解する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲の理解を深める意味でも、保存療法適用の基準と特徴を学びながら、その特性を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。

特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように、日々の学習に取り組んでください。

3 授業の方法

座学

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出席状況および積極性なども考慮する。

6 授業時間外学習

その日に学習した内容は、必ずその日のうちに復習し、理解できているかを確認してください。理解不足な点は質問などで理解力を深める努力をしてください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」 改訂第2版

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」 改訂第7版

資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・2年生までに学んだ各損傷の理論し、外傷の保存療法のポイントを学んでいくので、授業の進行状況を事前に把握しておきましょう。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 基礎柔道整学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	損傷の診察①
3	損傷の診察②
4	損傷の診察③
5	鑑別診断，合併症の有無を判定する，その他の治療法に関する情報の開示
6	説明と同意
7	徒手整復，固定法，整復・固定後の確認
8	医科との連携，固定期間の検討
9	後療法①
10	後療法②
11	治癒の判定①
12	治癒の判定②
13	注意事項，指導管理，予後
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部に直接的な外力が加わった場合①
18	肩部に直接的な外力が加わった場合②
19	肩部に直接的な外力が加わった場合③
20	肩部に間接的な外力が加わった場合①
21	肩部に間接的な外力が加わった場合②
22	肩部に間接的な外力が加わった場合③
23	明確な原因がない場合①
24	明確な原因がない場合②
25	明確な原因がない場合③
26	整形外科における診断の実状
27	まとめ復習 損傷の診察
28	まとめ復習 後療法
29	まとめ復習 治癒の判定
30	まとめ復習 外傷保存療法の経過及び治癒の判定
31	定期試験
32	定期試験解説解答

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

- ・柔道整復師として必要な物理療法の知識と技能を学習する。

2 到達目標

- ・臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

- ・教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

- ・定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

- ・質問への返答、課題に対する理解度

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂
資料

8 学生へのメッセージ

- ・伊藤元太郎（前期）
物理療法は柔道整復師の行う業務にあたり大事な所なのでしっかり勉強して下さい。
- ・舘川 大輔（後期）
柔道整復師の業務範囲を理解し、その使用方法、禁忌をできる限り理解するように、
適時質問するようにしてください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ／ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法（低周波電気刺激療法）
11	電気療法（中周波電流療法）
12	変換熱療法（超音波療法）
13	伝導熱療法（ホットパック療法）
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	伝導熱療法（パラフィン浴療法・水治療法）
18	輻射熱療法
19	変換熱療法（超短波療法）
20	変換熱療法（極超短波療法）
21	変換熱療法（超音波療法）
22	光線療法
23	寒冷療法（伝導冷却法）
24	寒冷療法（対流冷却法）
25	寒冷療法（気化冷却法）
26	牽引療法（頸椎介達牽引）
27	牽引療法（腰椎介達牽引）
28	間欠的圧迫法
29	後期の復習（１）
30	後期の復習（２）
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

頭部，体幹，上肢の骨折及び脱臼の各論を復習し，特に臨床的に重要な発生機序，診察法，整復法，固定法の理解を深める。

2 到達目標

各損傷の特徴を理解し，診察法を基本に，損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身に着けることを目標とする。

3 授業の方法

グループワーク中心に各部位ごと学生主体の授業形態で行う。

復習 → 発表 → 講義評価

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各骨折・脱臼に対して発表前週までに内容を把握。フォローアップ行う。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

1・2学年時の復習が多くなります。自身で身に着けた知識・技術を発表することで、内容を深め、また的確な検査・整復固定・後療法を確実に身につけることが出来ます。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	頭部, 顔面部の骨折 ① 頭蓋骨骨折, 顔面頭蓋骨折
2	頭部, 顔面部の骨折 ② 頭蓋骨骨折, 顔面頭蓋骨折
3	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ①
4	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ②
5	胸部の骨折 — 肋骨骨折、胸骨骨折
6	上肢の骨折 — 鎖骨骨折(定型的骨折, 整復法, 固定法を除く)
7	肩甲骨の骨折
8	上腕骨近位端部の骨折 ①
9	上腕骨近位端部の骨折 ②
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位端部骨折 ①
12	上腕骨遠位端部骨折 ②
13	前腕骨近位端部骨折 ①
14	前腕骨近位端部骨折 ②
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕骨骨幹部骨折
18	前腕骨遠位端部骨折 ① (コーレス骨折整復法, 固定法を除く)
19	前腕骨遠位端部骨折 ② (コーレス骨折整復法, 固定法を除く)
20	手根骨骨折 ①
21	手根骨骨折 ②
22	中手骨骨折 ①
23	中手骨骨折 ②
24	指骨骨折 ①
25	指骨骨折 ②
26	頭部, 顔面部の骨折 復習
27	脊椎の骨折 復習
28	上腕骨骨折 復習
29	前腕骨骨折 復習
30	手根骨、中手骨、指骨骨折 復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

柔道整復術の臨床的判定・医用画像

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な施術の適応判断の知識と、医用画像の理解を深め、担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、画像の運用方法、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師として施術の適応、医用画像の理解ができるようになる。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患 1
3	損傷に類似する症状を示す疾患 2
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷 1
8	外出血を伴う損傷 2
9	外出血を伴う損傷 3
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害を伴う損傷
12	脊髄症状のある損傷 1
13	脊髄症状のある損傷 2
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	呼吸運動障害を伴う損傷
18	内臓損傷の合併が疑われる損傷
19	高エネルギー外傷
20	医用画像とは、放射線の概要
21	主要な部位の一般撮影法
22	画像のデジタル化
23	CT の概要
24	CT 撮影の実際
25	MRI の概要
26	MR 検査の手順
27	超音波画像装置の概要
28	運動器系の画像
29	臨床画像の実際
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復学の総論および下肢の骨折を復習し、その詳細を徹底して理解する。

2 到達目標

総論の内容は、各損傷を理解するうえで土台となるものであり、総論が理解できていないと、各損傷の理解度が足らなくなる。したがって、総論を詳細にわたる範囲で学びなおし、理解度を深めることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら、復習を行っていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回見直しをして、自分の理解でいていない個所をよく知るようにしてください。

復習の徹底が、学習成果として表れることを自覚してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画をきちんと立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	損傷時に加わる力、痛みの基礎
2	骨の損傷 ① 分類
3	骨の損傷 ② 症状 合併症
4	骨の損傷 ③ 小児骨折 高齢者骨折
5	骨の損傷 ④ 癒合日数 治癒経過 予後
6	関節損傷 ① 概説 分類
7	関節損傷 ② 損傷組織 類症
8	関節損傷 ③ 脱臼
9	筋損傷
10	腱損傷
11	末梢神経損傷
12	診察 ① 注意点 概説 時期による分類 治療計画作成
13	診察 ② 施術録の扱いと記載の実際
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説、復習
17	治療法 ①
18	治療法 ②
19	骨盤骨骨折 ①
20	骨盤骨骨折 ②
21	大腿骨骨折 ①
22	大腿骨骨折 ②
23	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折 ①
24	下腿骨骨折 ②
25	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ①
26	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ②
27	足根骨骨折 ①
28	足根骨骨折 ②
29	中足骨骨折、趾骨骨折
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための基本的理念を、シミュレーションを交えながら、学習していく。

2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を、実際に施術に活かせるように、その基礎について、更なる理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

板書を中心に、グループワークも取り入れて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れた、自己学習に活かせるように、授業に集中してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復業務
2	骨折の施術
3	脱臼の施術
4	軟部組織の施術
5	損傷の診察
6	鑑別診断
7	合併症の有無の判定
8	その他の治療法に関する情報の提示
9	説明と同意
10	徒手整復
11	固定法
12	整復・固定の確認
13	医科との連携
14	固定期間の検討
15	中間試験
16	試験解説
17	後療法 ①
18	後療法 ②
19	指導管理
20	骨折各論 ① － 体幹
21	骨折各論 ② － 上肢①
22	骨折各論 ③ － 上肢②
23	骨折各論 ④ － 下肢①
24	骨折各論 ⑤ － 下肢②
25	脱臼各論 ① － 上肢
26	脱臼各論 ② － 下肢
27	軟部組織損傷 ①
28	軟部組織損傷 ②
29	軟部組織損傷 ③
30	軟部組織損傷 ④
31	定期試験
32	試験解答, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）
機能訓練指導

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が携わる機能訓練指導について、その内容を理解し、実践につながる基礎を学ぶ。

2 到達目標

高齢者の身体的、心理的特徴を理解し、特有の疾病を知ること为目标とする。
併せて介護について学ぶことで、機能訓練指導を具体的にイメージでき、機能訓練指導員として、柔道整復師が介護の分野における位置づけを理解する。

3 授業の方法

板書を基本に進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は出席状況も加味する

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が 45 分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

7 使用教材，教具

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修

「柔道整復師と機能訓練指導 — 機能訓練指導員養成テキスト」

8 学生へのメッセージ

柔道整復師が介護の分野で業務に携わるためには、高齢者の特徴や介護保険についての知識を身につけることが重要です。また、地域医療連携を実現させるためにも、きちんと学習してください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表へ戻る

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師と介護保険 P1～P3
2	発達と老化の理解 P5～P7
3	発達と老化の理解 ― 学習 P7～P10
4	老年期の発達と成熟 P10～P11
5	老化に伴う心と身体の変化と日常生活 P11～P13
6	エイジング理論 P13～P16
7	高齢者と健康① P16～P24
8	高齢者と健康② P16～P24
9	高齢者と健康③ P16～P24
10	認知症の理解① ― 認知症の定義, 認知症を取り巻く状況 P25～P31
11	認知症の理解② ― 認知症の定義, 認知症を取り巻く状況 P25～P31
12	医学的側面からみた認知症の基礎① P31～P37
13	医学的側面からみた認知症の基礎② P31～P37
14	認知症に伴う心と体の変化と日常生活 P37～P45
15	中間試験
16	試験解説
17	介護保険制度 P47～49
18	要介護度 P49～P53
19	介護保険の給付～① P54～P66
20	介護保険の給付～② P54～P66
21	介護の過程 P67～P72
22	高齢者介護と ICF① P73～83
23	高齢者介護と ICF② P73～83
24	介護予防と生活機能の向上 P85～88
25	介護予防・日常生活支援総合事業 P89～P94
26	ロコモティブシンドローム P95～P102
27	高齢者自立支援の理解 P103～P122
28	機能訓練指導員と機能訓練① P123～
29	機能訓練指導員と機能訓練② P123～
30	機能訓練指導員と機能訓練③ P123～
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を，シミュレーションを交えながら，学習していく。

2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を，実際に施術に活かせるように，その指導管理及び外傷予防について，更なる理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

板書を中心に，グループワークも取り入れて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し，自己の理解度を分析し，学習方法を確立していく。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れた，自己学習に活かせるように，授業に集中してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

回数	授業内容
1	指導管理 ― 患者とその環境の把握
2	指導管理 ― 患者の環境に対する指導管理
3	日常生活動作，環境の指導管理 ― 臥床時の体位，患肢保持
4	姿勢や肢位の指導管理
5	歩行の指導管理
6	衣服，食事動作，入浴，清潔保持・保清，トイレの指導管理
7	体調把握の指導管理
8	施術所外でできる運動の指導管理
9	住宅環境に対する指導管理 ― 部屋，寝具，家具，トイレ様式，浴室の指導管理
10	就労環境，就学環境，スポーツ活動に対する指導管理
11	就労環境の指導管理
12	就学環境，スポーツ活動の指導管理
13	自己管理に対する指導
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	外傷予防概論
18	外傷予防 ― 第一段階
19	運動機能向上と教育活動
20	身体の基礎的状态の評価と対応 ― 健康と体調管理
21	健康と体調管理 ― 年齢，性別，既往歴・現病歴・家族歴
22	健康と体調管理 ― 体組成，バイタルサイン，栄養状態，睡眠状態
23	健康と体調管理 ― 体格・体型，体位・姿勢，四肢の形態
24	身体とそれに伴う状態 ― 基礎体力，関節可動域と柔軟性
25	付帯する環境要因の評価と対応
26	外傷予防啓発などの教育活動
27	メンタルヘルスを保つ活動
28	特異的予防 ― 発生機序の評価と対応
29	第二段階：早期発見，早期治療 第三段階
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解答，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が臨床上接することの多い各種軟部組織損傷の詳細な内容を学習する。

2 到達目標

2年次に学習した内容を振り返り、さらに詳細な臨床症状、治療法、後療法の理論を学習し、習得する。

3 授業の方法

板書を基本に進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が 45 分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第 7 版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の治療法を体得するためには、外傷の基礎をしっかりと習得することです。理論を理解することで、治療の技術習得に繋がるので、積極的に学習してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ①
2	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ②
3	頸部の軟部組織損傷
4	胸・背部、腰部の軟部組織損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷
6	上腕部の軟部組織損傷
7	肘関節部の軟部組織損傷
8	前腕部の軟部組織損傷 ①
9	前腕部の軟部組織損傷 ②
10	手関節の軟部組織損傷 ①
11	手関節の軟部組織損傷 ②
12	手部・指部の軟部組織損傷 ①
13	手部・指部の軟部組織損傷 ②
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	股関節の軟部組織損傷
18	大腿部の軟部組織損傷
19	膝関節部の軟部組織損傷 ①
20	膝関節部の軟部組織損傷 ②
21	膝関節部の軟部組織損傷 ③
22	下腿部の軟部組織損傷 ①
23	下腿部の軟部組織損傷 ②
24	足関節部の軟部組織損傷 ①
25	足関節部の軟部組織損傷 ②
26	足・趾部の軟部組織損傷 ①
27	足・趾部の軟部組織損傷 ②
28	軟部組織損傷の徒手検査法 ①
29	軟部組織損傷の徒手検査法 ②
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ：高齢者の外傷予防 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

高齢者の身体の生理的、機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について学ぶ。

2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた、高齢者の外傷予防の知識を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（白衣、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。
- ・白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表へ戻る

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ：高齢者の外傷予防）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ復習
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

機能訓練指導実技

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

機能訓練指導で提供する運動と要点を理解し、実践できる基礎を学ぶ。

2 到達目標

機能訓練指導を行ううえで、高齢者の生理学的特徴を理解し、それぞれの心身状態に沿った内容の運動指導が実施できることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、運動療法を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は出席状況や意欲などを加味し評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練」南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「競技者の外傷予防」医歯薬出版
- ・配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・2年生までに学んだ各損傷の理論を応用し、身体機能回復の基礎技術を機能訓練に置き換え、その技法を身につけましょう。
- ・臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるように、ロールプレイをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が実務的授業を実施する。

1 1 授業計画 科目名 (柔道整復実技Ⅷ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション 機能訓練指導員と機能訓練
2	柔道整復師が行う機能訓練指導の特性
3	機能訓練の評価
4	個別機能訓練実施計画書の作成
5	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 リスクマネジメント
6	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 疾患・症候とリスク
7	拘縮のある利用者の機能訓練
8	機能訓練で提供する運動と要点 機能訓練の手順 ― 事前アセスメント
9	プログラムの実施 ― 事後アセスメント
10	器具を用いない運動 背臥位で行う軽運動
11	運動開始前の予備運動 (1)
12	運動開始前の予備運動 (2)
13	立位で行う上肢・体幹のストレッチング
14	立位で行う下肢のストレッチング
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

軟部組織損傷について、各損傷を理解しながら、実際の施術方法を実技で学ぶ。
特にスポーツコンディショニングに焦点を当てて体験する。

2 到達目標

各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習
において、基礎的手法を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本として実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は出席状況、白衣の状態、履物、衛生材料の管理などを含み評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を
必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なこと
を認識すること。

7 使用教材，教具

- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
- ・配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・2年生で学んだ各損傷の理論を思い出し、国家試験受験、認定実技審査受験も視野に入
れて、診察法、整復法、固定法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるように、ロー
ルプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全
て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が実務的授業を実施する。

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

回数	授業内容
1	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷① ― 診察法、検査法
2	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷② ― 診察法、検査法
3	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷① ― 診察法、検査法
4	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷② ― 診察法、検査法
5	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷① 診察法、検査法
6	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷② 診察法、検査法
7	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷① ― 診察法、検査法
8	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷② ― 診察法、検査法
9	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷① ― 診察法、検査法
10	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷② ― 診察法、検査法
11	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷① ― 診察法、検査法
12	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷② ― 診察法、検査法
13	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷① ― 診察法、検査法
14	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷② ― 診察法、検査法
15	中間試験
16	試験解説
17	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷① ― 診察法、検査法
18	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷② ― 診察法、検査法
19	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷① ― 診察法、検査法
20	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷② ― 診察法、検査法
21	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法①
22	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法②
23	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法①
24	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法②
25	足関節外側靱帯損傷 ― 局所副子固定法
26	膝関節内側側副靱帯損傷 ― Xサポートテープ固定法
27	足関節外側靱帯損傷 ― バスケットウィーブテープ固定法
28	足関節外側靱帯損傷 ― フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定法
29	まとめ復習①
30	まとめ復習②
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら、臨床への対応を理解する。
柔道整復師の日常業務である療養費の取扱いについても学ぶ。

2 到達目標

柔道整復施術の手順を、ロールプレイを通して体感し、理論に一致しているか確認しながら実技を修得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席率、積極性なども評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容を、その日のうちに再度シミュレーションし、復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い、真剣に取り組んでください。

45分授業なので、更衣は迅速に行ってください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ／ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

[科目表へ戻る](#)

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

回数	授業内容
1	診察法の実際
2	問診、視診、触診の方法
3	医療コミュニケーションの実際
4	機能的診察
5	鑑別診断～説明と同意
6	徒手整復、固定法、整復・固定後の確認
7	医科との連携～後療法
8	経過
9	物理療法、手技療法、運動療法
10	治療の判定
11	診察
12	治療法 ― 整復法
13	治療法 ― 固定法
14	治療法 ― 後療法
15	中間試験
16	試験解説
17	医療面接の実際① ― 問診 ロールプレイ
18	医療面接の実際② ― 問診、視診 ロールプレイ
19	医療面接の実際③ ― 問診、視診 ロールプレイ
20	医療面接の実際④ ― 問診、視診、触診 ロールプレイ
21	医療面接の実際⑤ ― 問診、視診、触診 ロールプレイ
22	医療面接の実際⑥ ― 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
23	医療面接の実際⑦ ― 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
24	医療面接の実際⑧ ― ロールプレイ 施術録の記載
25	医療面接の実際⑨ ― ロールプレイ 施術録の記載
26	医療面接の実際⑩ ― ロールプレイ 療養費の請求方法
27	医療面接の実際⑪ ― ロールプレイ 療養費の請求方法
28	医療面接の実際⑫ ― ロールプレイ
29	医療面接の実際⑬ ― ロールプレイ
30	医療面接の実際⑭ ― ロールプレイ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

各損傷の応急手当の手順を，実技実習において学ぶ。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して，実際の施術はもとより，合併症なども視野に入れた，応急手当の方法を体得すことを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で，実技に臨んでもらいたいので，予習を重点に自己学習を欠かさないでもらいたい。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば，いつでも質問するように心がけてください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

[科目表へ戻る](#)

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の損傷
2	頸部の損傷
3	胸・背部の損傷
4	腰部の損傷
5	鎖骨部の損傷
6	肩関節部の損傷①
7	肩関節部の損傷②
8	上腕部の損傷
9	肘関節部の損傷
10	前腕部の損傷①
11	前腕部の損傷②
12	手関節部の損傷
13	手・指部の損傷①
14	手・指部の損傷②
15	中間試験
16	試験解説
17	骨盤部の損傷
18	股関節部の損傷
19	大腿部の損傷
20	膝関節部の損傷①
21	膝関節部の損傷②
22	下腿部の損傷
23	足関節部の損傷
24	足・足趾部の損傷
25	上肢骨折の復習①
26	上肢骨折の復習②
27	下肢骨折の復習①
28	下肢骨折の復習②
29	上肢脱臼の復習①
30	上肢脱臼の復習②
31	定期試験
32	試験解説

回数	授業内容
31	上肢脱臼の復習②
32	上肢脱臼の復習③
33	下肢脱臼の復習①
34	下肢脱臼の復習②
35	上肢軟部組織損傷の復習①
36	上肢軟部組織損傷の復習②
37	上肢軟部組織損傷の復習③
38	上肢軟部組織損傷の復習④
39	下肢軟部組織損傷の復習①
40	下肢軟部組織損傷の復習②
41	下肢軟部組織損傷の復習③
42	下肢軟部組織損傷の復習④
43	体幹の損傷①
44	体幹の損傷②
45	鑑別診断①
46	鑑別診断②
47	まとめ復習
48	定期試験, 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目指す。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公共交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録，レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当。

科目表へ戻る

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8月中の期間で、5日～7日間（45時間）の臨床実習を行う。